

複数言語学習者として育つ子どもたち への支援を考えるー就学前の子どもが 育つ「環境」への働きかけー

SEP4, 2022

東洋大学ライフデザイン学部
子ども支援学専攻
内田 千春



東洋大学
TOYO UNIVERSITY

流れ

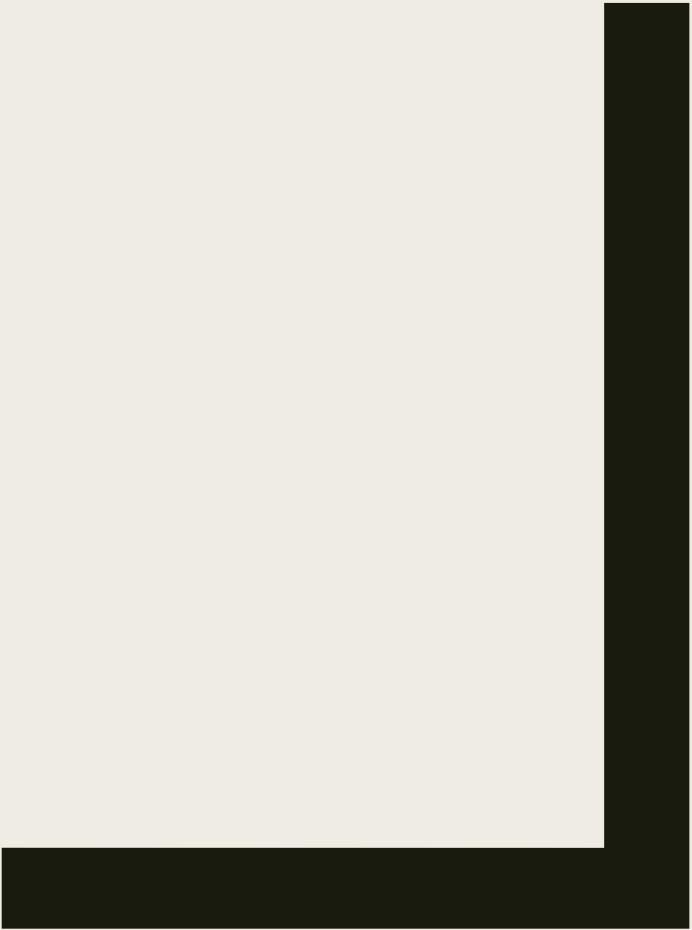
お話 15:05～

1. 複数言語環境で育つ子どもとその家族を支援する際の基本的な考え方
2. 背景は多様
3. 多言語環境で育つ子どもの言語発達
4. 子育ての支援はいつ誰が～家庭・地域のリソース

グループ交流と質疑応答 16:00～16:25



基本的な考え方



第2言語学習者ではなく

- Japanese as a second language learners 日本語を第2言語として学ぶ学習者
- Dual Language Learners 複数の言語の学び手・学習者
- Emerging Dual Language Learners 複数の言語の学び手になっていく子どもたち

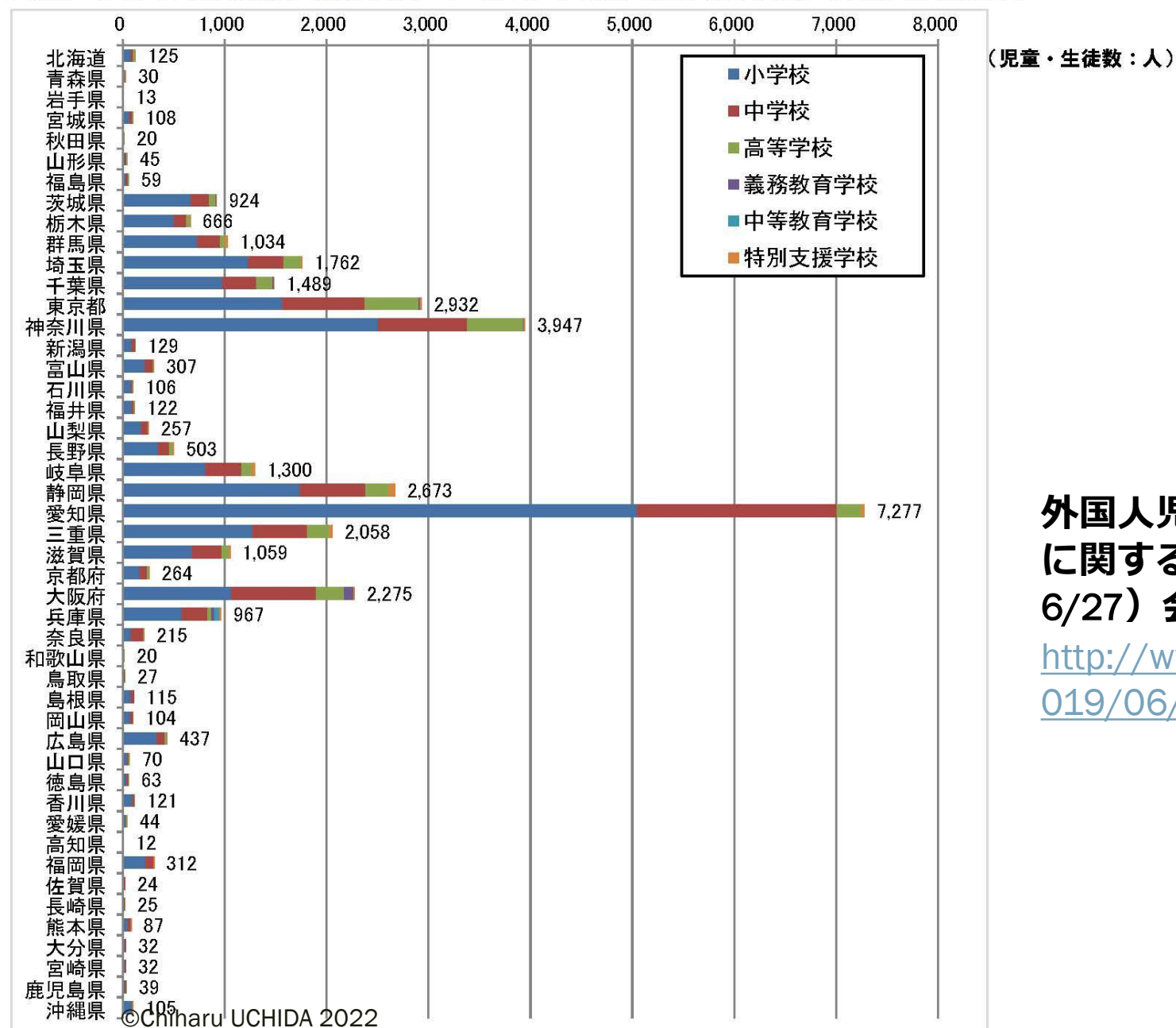
複数言語環境で育つ子どもたち

- 家庭と社会の言語が異なる
- 家庭内に複数の言語がある
- 社会に複数の言語がある

各言語の持つ
権威性の違い

言語政策の持つ
政治性

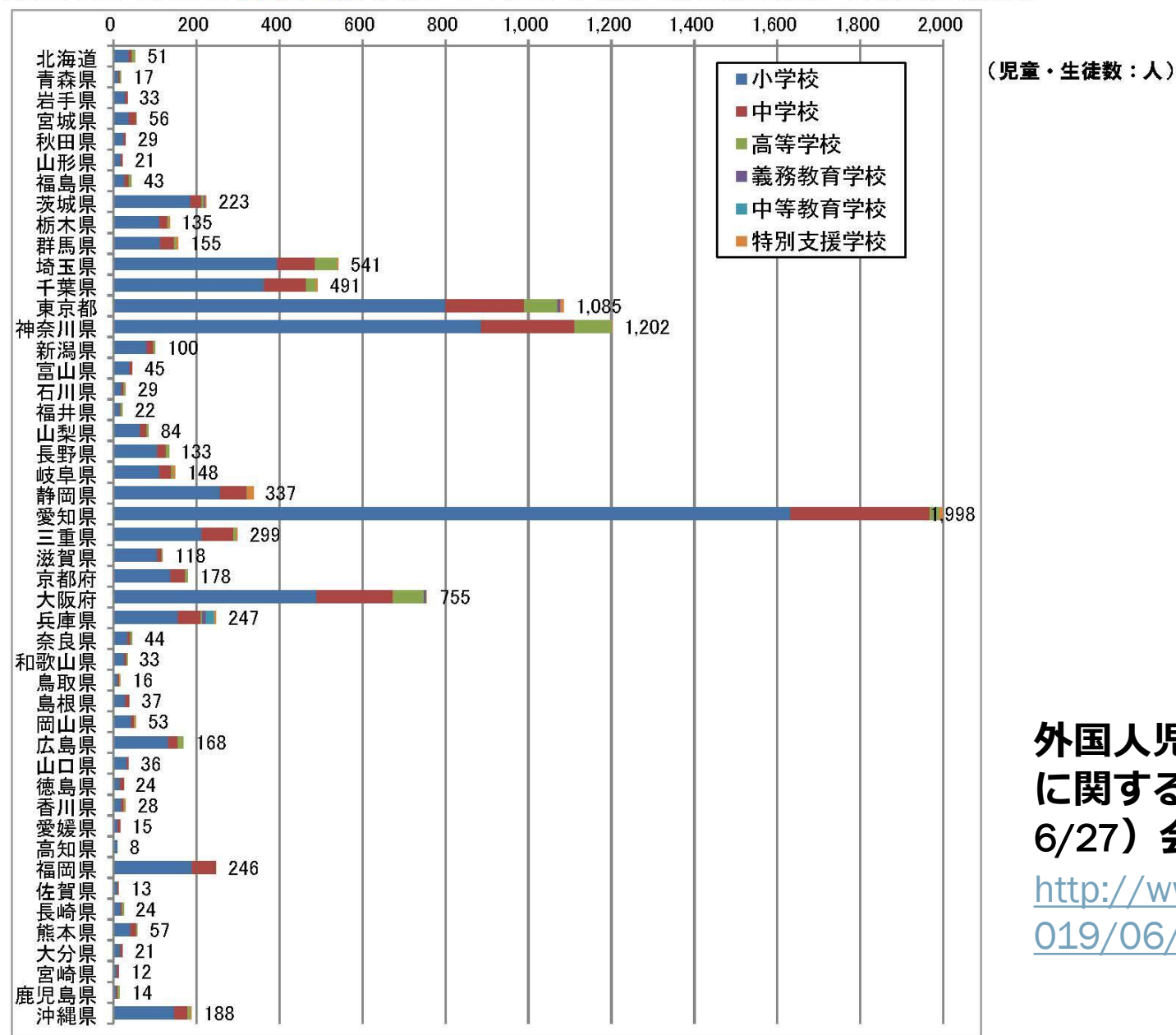
日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）



外国人児童生徒等の教育の充実に
関する有識者会議（第1回
6/27）会議資料より

<http://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/06/1418200.htm>

日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）



外国人児童生徒等の教育の充実
に関する有識者会議（第1回
6/27）会議資料より

<http://www.mext.go.jp/kaigisiryo/2019/06/1418200.htm>

集団保育でなぜ『文化的摩擦』が生まれるのか～

- 「わたし」の当たり前
- 「わたしたち」の当たり前
- 「保育」の当たり前
- 「日本」の当たり前・・・



おべんとうだと
食事が冷たく
なってしまう



入園式って
何？



暑くても4月
なら制服？



お弁当に
スープ？



頭を触るのは
タブー？



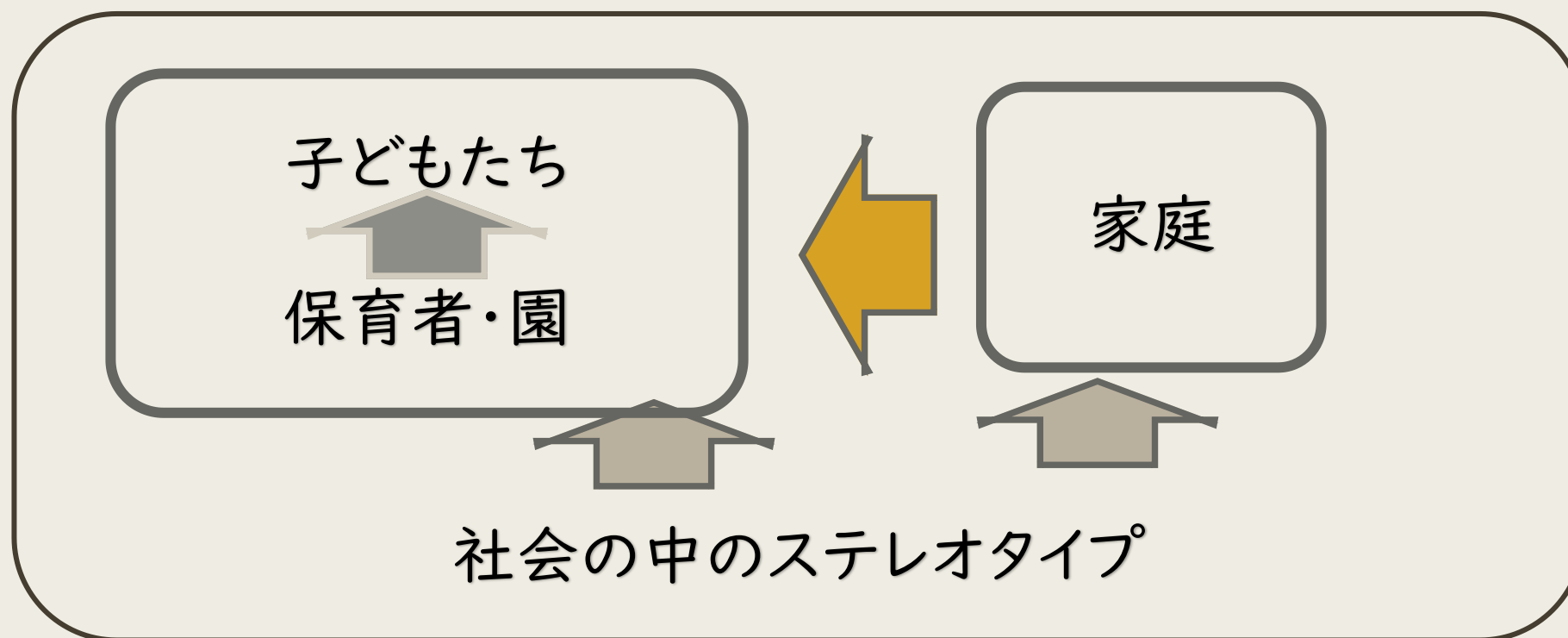
水筒に
ジュース？



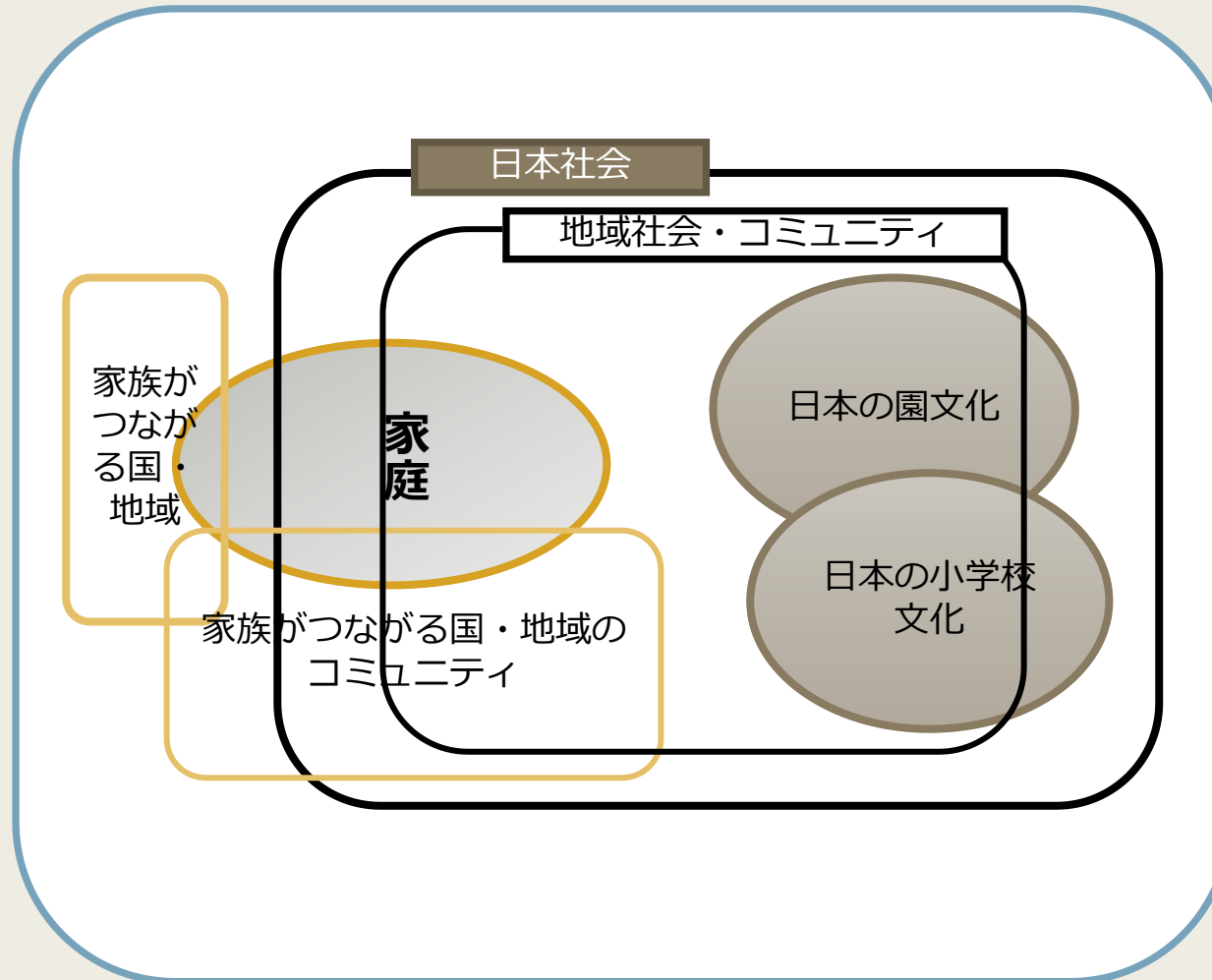
子どもに
ピアス？

小さな子どもたちの集団でもある「前偏見」：当事者の子どもも例外ではなく…

- そのままにしておくと偏見や差別につながる「ものの見方・感じ方」=『前偏見pre-prejudice』（佐藤2012）



保護者のエンパワメント 『家庭』の潜在力と『社会資本』



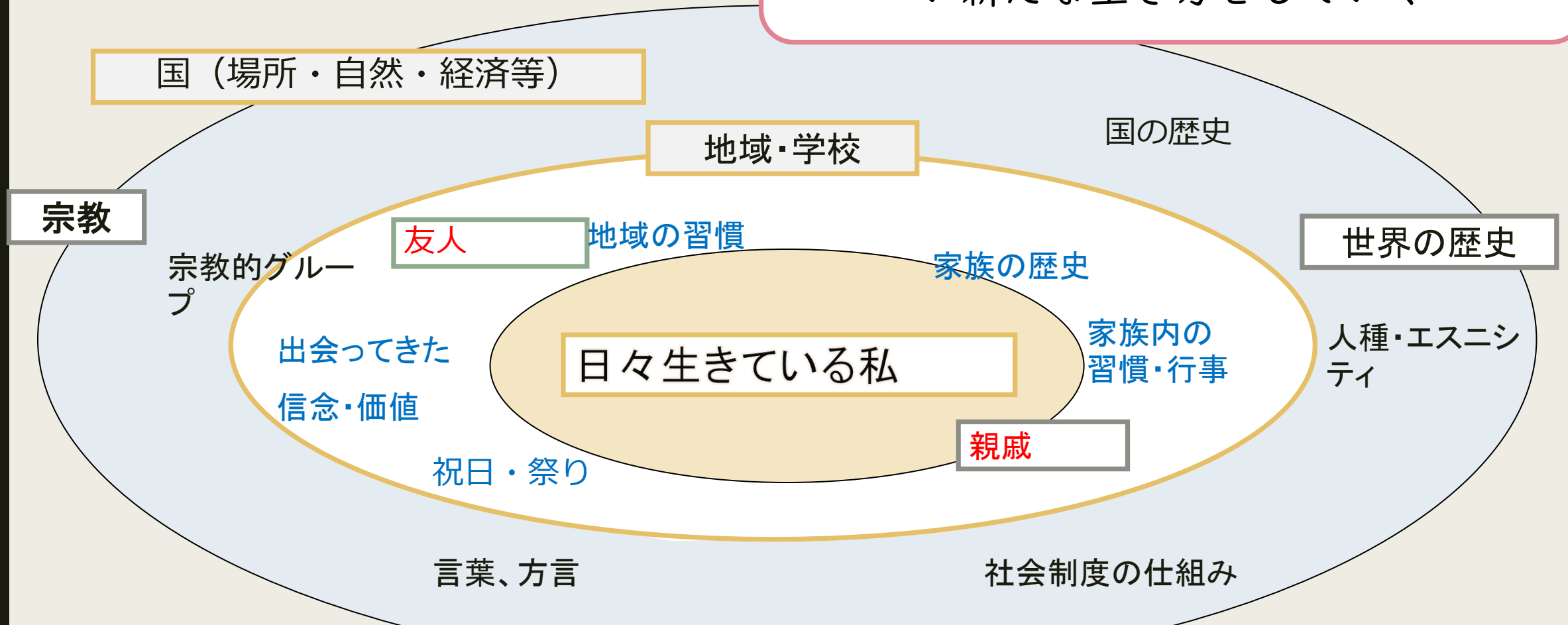
日本語でないものは見えにくい。でもそこにあるもの。



- 母文化コミュニティのネットワーク
- 母国での資格・経歴。思いがけないスキルを持つ人たち
- 言語の壁で隠れている「見えない力」を尊重する

その時、そこで生きる「私」

THIRD CULTURE
日本で暮らす「私」は、親と同じではない
新たな生き方をしていく



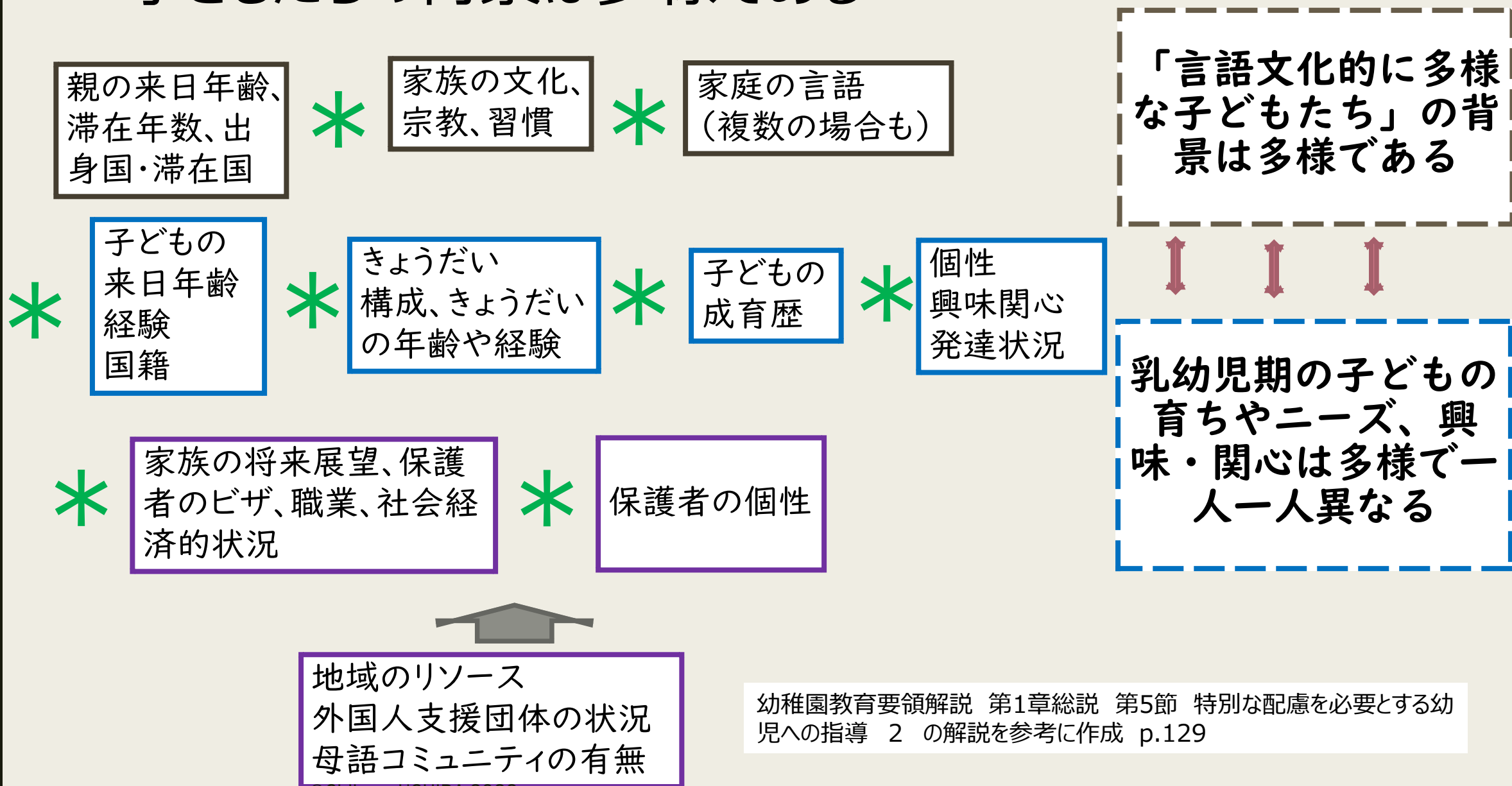
ブロンフェンブレナー（1996）人間発達の生態学 川島書店



2. 背景は多様



子どもたちの背景は多様である



幼稚園教育要領解説 第1章総説 第5節 特別な配慮を必要とする幼児への指導 2 の解説を参考に作成 p.129

「言語文化的に多様な子どもたち」の背景は多様である



乳幼児期の子どもの育ちやニーズ、興味・関心は多様で一人一人異なる

子育て中の家族への支援の考え方

＊専業主婦の方が、働いている母親よりも育児ストレスが高い

＊〇〇ちゃんのお母さん、お父さんではなく、個人としてのかかわりを意識する。

＊子どもについて、気が付いたことを共有し、一緒に考える

＊保護者の意志・考え方を尊重する（アドバイスをするわけではない）

＊この先の育児に自立的に取り組めるように（支援者が抱え込まない）

★家族全体のシステムとして考える & 自分ができることで、支援する（多職種・多機関連携、ソーシャルワーク）

3. 複数言語環境で育つ子供 の言語発達

温かいふれあいの中で、言葉が身についていく

伝えたい人がいて、伝えたいことがある

伝えたい人
(家族・保育者・友だち)

信頼関係の形成



応答的な他者

伝えたいこと
(心が動くこと)

豊かな体験 (生活・遊びの充実)

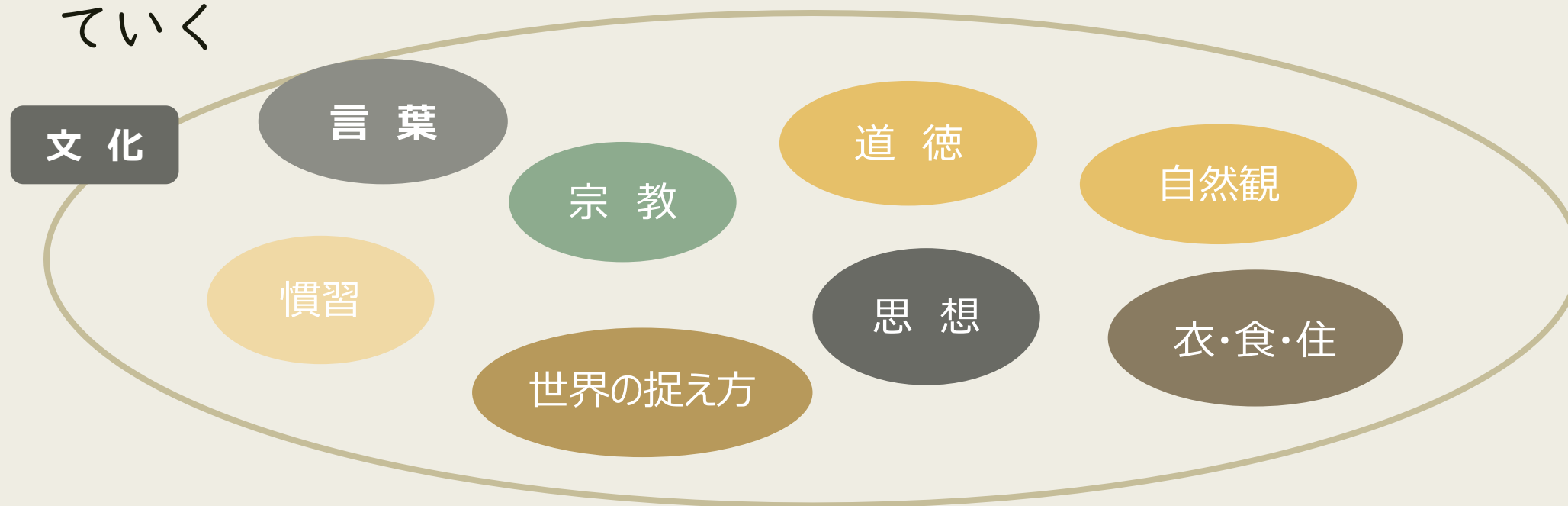


身体をくぐった体験 (直接体験)

温かい関係は基盤。
豊かな体験ができる環境＋豊かな言葉やかかわりがある環境

言葉は文化

- 言葉は、**文化の象徴**であり、文化を映し出すもの
- 言葉は、その文化の価値観を表す
- 日本語を学ぶということは、背景にある日本文化も獲得していく



言葉は「わたし」をつくる

- 言葉は、自己表現の手段
- 言葉は、「わたし」の内面世界を形作る
- 言葉は、自己制御・自己調整に関わる
- 言葉は、アイデンティティの形成に関わる
⇒ **母語（継承語）**の大切さ

母語：自己表現が自由にできる言語

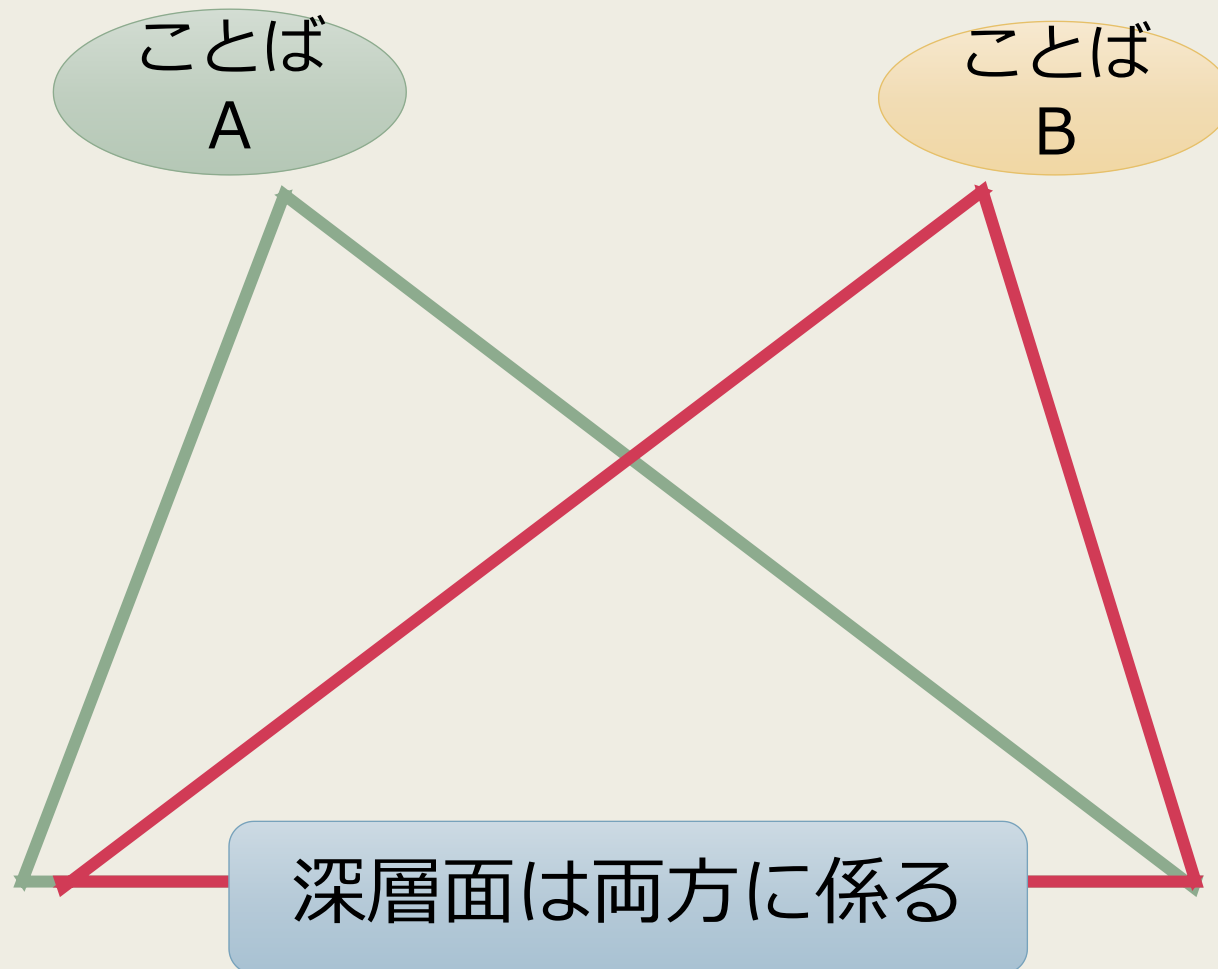
継承語：自己のルーツになる文化を象徴する言語

複数の言語を学びつつある時期には、家庭の言葉（母語）や家庭での経験が、認知発達、社会性の発達を支えている

乳幼児期は、母語を失いやすい時期でもある
家庭の言葉の方針を園や支援者が理解する+**情報**を提供

複数言語の環境での言語発達の特徴

経験的に、二言語共有説は有効。深層面には認知発達を含むのではないか。



2つ以上の言葉を同時に習得していくことは可能

それぞれの言語での発達は就学前はゆっくりに見えるが、後にどちらも変わりなく発達

母語がしっかり発達している子どもほど、2つめの言語を取り入れる手がかりをたくさんもっている

カミンズ（1984）の二言語共有説
（中島2016）

5～8歳頃の接続期の言語発達：生活言語と学習言語

「生活言語」	「学習言語」
日常生活の具体的な事象や場面と関連が強い 具体的な直接体験についての表現 お互いの関係性の中で使用	場面や文脈の依存度が少ない言語 抽象的思考につながる 教科学習に必要な概念や認知が求められる

環境に『参加』し取り込んでいく

- 見かけの流暢さや発音では、**言葉の力**はわからない
- 学校で必要なのは、**考えるためのことば**（思考・概念・認知活動）
- 概念形成は、異なる言語にも応用される

リスク要因は、
言語の違い
だけではない

生活言語をたくさん使って、考えたり、表現したりする機会を持てているか。
話している「内容」「複雑さ」はどうか。
母語での経験はどうか。家庭の協力はどの程度可能か。

4. 子育ての支援はいつ誰が ～家庭・地域のリソース

子どもの出産前後、園に入るまで

第一子かどうか
母国の母子保健の充実度

多言語での育ちの支援

親の母国での
育ち

家庭の言語
習慣

きょうだいな
どの家族構成

言語的支援の有無

日本の子育て文化

3～2歳

産後2～3
頃

入園手続き

か月

周産期

子育て情報・子育て支援・
社会とのつながり

妊娠期、
準備期

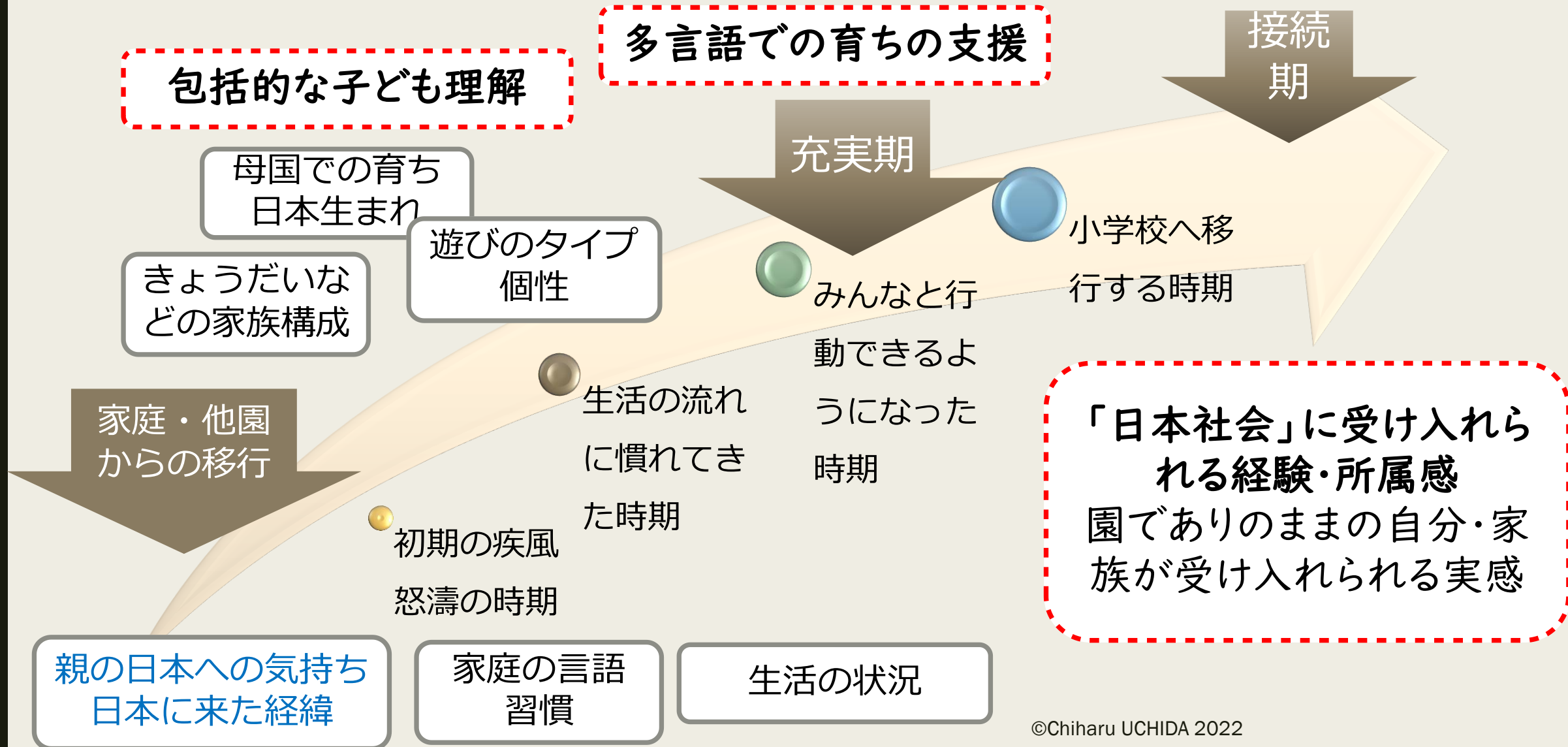
病院の情報、産前の講座、こにちは赤ちゃん事業、6ヶ月健診、1歳半健診・・・

子育て支援で必要なこと・伝えたいこと

- 家庭の文化に興味関心を持つ
- 子どもと保護者が一緒に楽しめることを紹介する
- 地域のリソース（活用できる場・人・もの）を探しておく

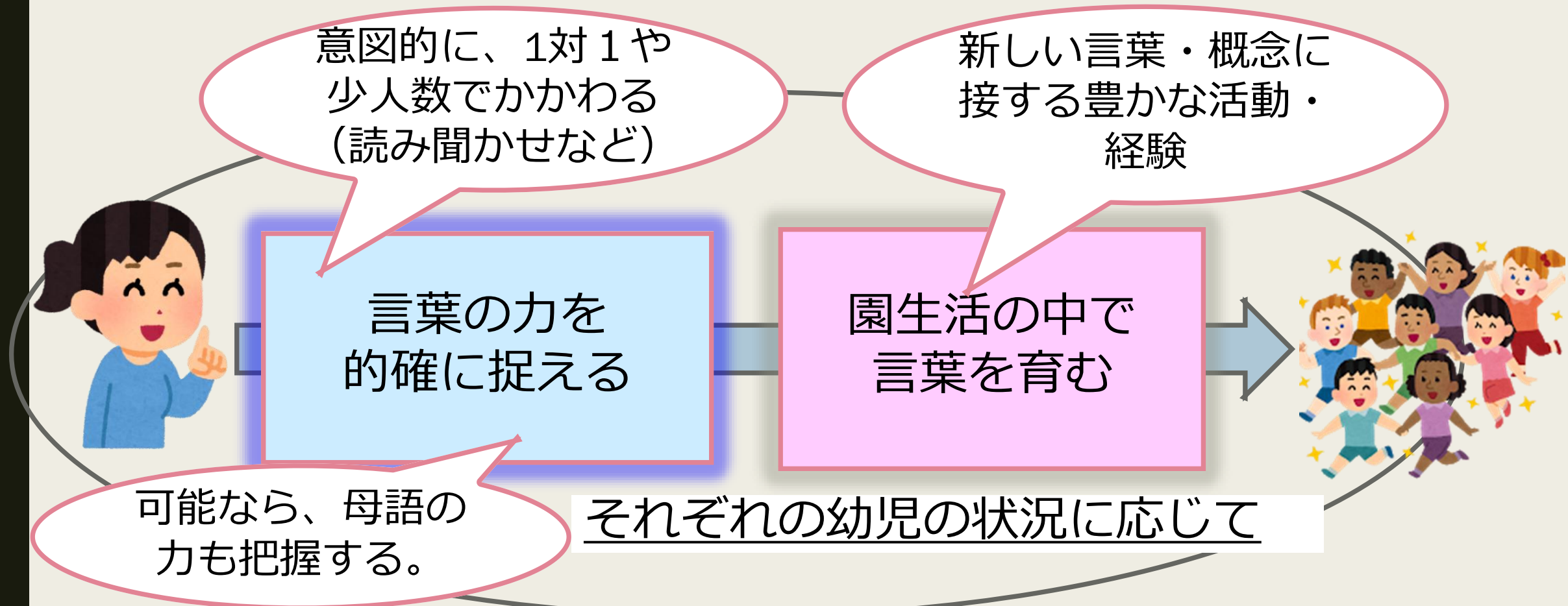
- 幼児期までは、ビデオ教材では言葉は学べない
- 子どもと一緒に何かをする機会を持つ
- お手伝い、家事と一緒に
- 得意なことばで絵本や歌を
- 子どもが自分で考え試してみることが大事
- 失敗は学びのチャンス
- 知らないことを調べる姿を見せる

保育所・幼稚園・こども園の入園前後



園での支援（１）

保育者が言葉の力を育む視点をもって意識して関わる



園での支援（２）

日常の活動の中で、「言葉を育む視点」を持つ・園の外にいる『サポーター』とつながる

家庭の文化を取り入れる：母国の絵本、歌やゲーム。保護者の参加。

多様な表現や広がり

- ・別の言い方
- ・関連する言葉
- ・場面や内容理解

園生活の中で
言葉を育む

伝える機会・伝える言葉

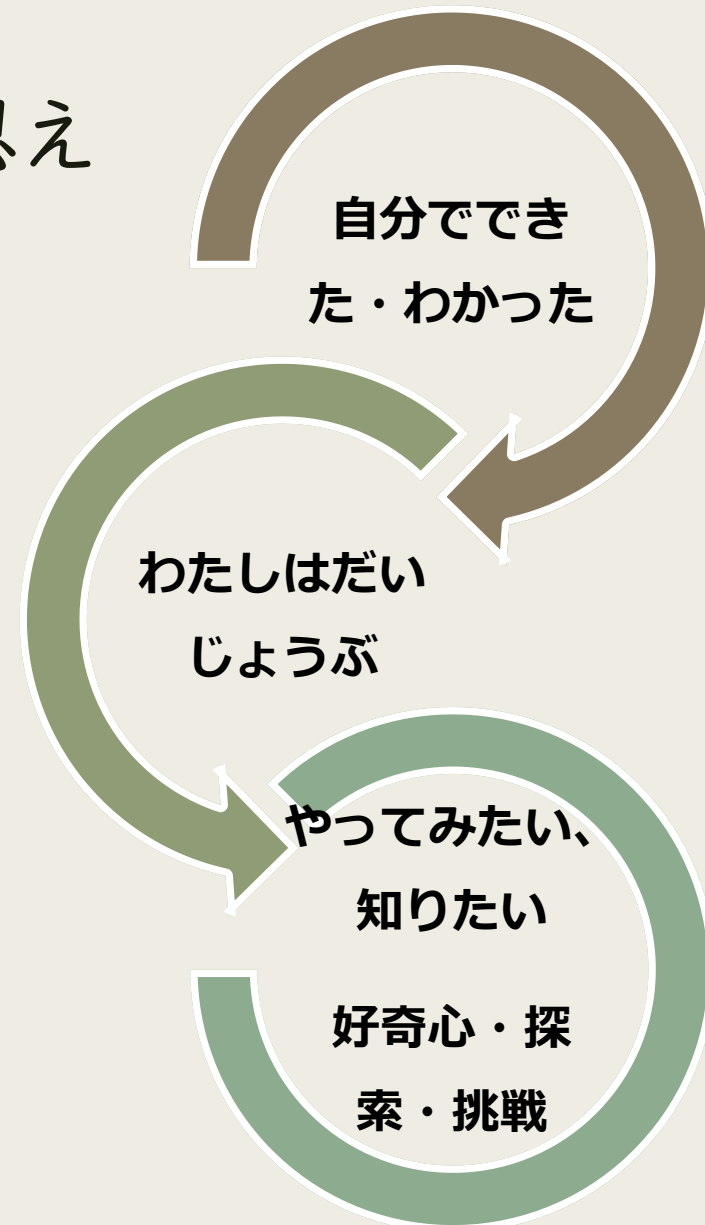
- ・相手を意識して話す
- ・心を向けて聞く
- ・伝える、伝えあう経験

**保育者自身が使う
言葉を意識する**

園での支援(3)

新たな場所で「やってみよう」と思える底力を育てる

- 「三つの資質能力」と「幼児期の終わりまでに育てたい力」
- 学びに向かう力、自己肯定感
 - 助けてくれる人がいる
 - 失敗しても大丈夫
 - ありのままの私でよい



内田 (2022)

接続期と地域連携ネットワーク

保護者同士のネットワーク。
保護者への日本語教室。遊び支援・子育て支援。

NPO

安心

放課後教室の紹介。通訳サービスの提供。多言語の小学校就学ガイドの配布。
保護者への日本語教室。

行政

園

幼稚園から外国人幼児等の日本語の力・指導上の配慮事項等を伝える

小学校

安心して入学できる環境や支援を準備する

＜参考文献＞

- 荒牧・榎井・江原・小島・志水・南野・宮島・山野（編著）（2017）外国人の子ども白書：権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から 明石書店
- ブロンフェンブレナー（1996）人間発達の生態学 川島書店
- 今井むつみ・針生悦子（2014）言葉をおぼえるしくみ 母語から外国語まで ちくま学芸文庫
- 国立教育政策研究所（2020）幼児教育・保育の国際比較：OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書——質の高い幼児教育・保育に向けて 明石書店
- 国立教育政策研究所（編）（2018）TALIS 2018報告書 教員環境の国際比較 学び続ける教員と校長 ぎょうせい
- 咲間まり子（編）（2020）保育者のための外国人保護者支援の本 かもがわ出版
- 咲間まり子（編著）（2014）多文化保育・教育論（株）みらい
- 中島和子（2016）バイリンガル教育の方法 完全改訂版 アルク出版
- 文部科学省 かすたねっと <https://casta-net.mext.go.jp/bunsho/>（2021年7月1日アクセス）
- 文部科学省（2020）外国人幼児等の受け入れにおける配慮について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_00505.html（2021年7月1日アクセス）
- 内田千春（2022）第3章 4文科省の外国人の子どもの教育にかかわる施策について 南野奈津子（編著）「地域で取り組む 外国人の子育て支援 ～自治体・関係機関連携の課題と実践～」 ぎょうせい